
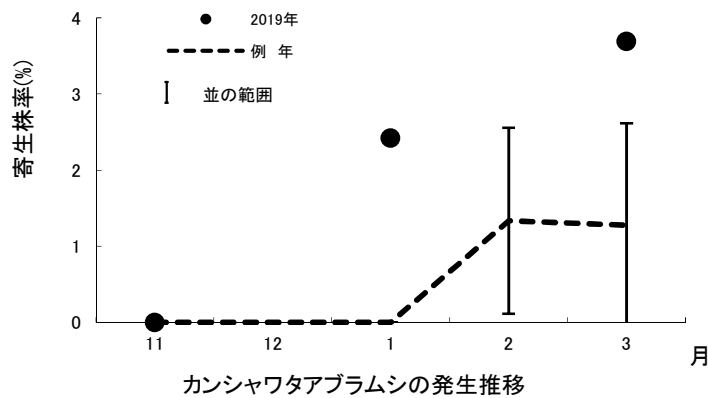


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① カンシャワタアブラムシ		
3月の発生量(現況)	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



- ・ 宮城島の一部ほ場で多発生。
- ・ 宮城島及び南部地域では、分散能力の高い有翅虫も発生していた。
- ・ 天敵のマエウスジロマダラメイガは未確認。




有翅虫と幼虫→



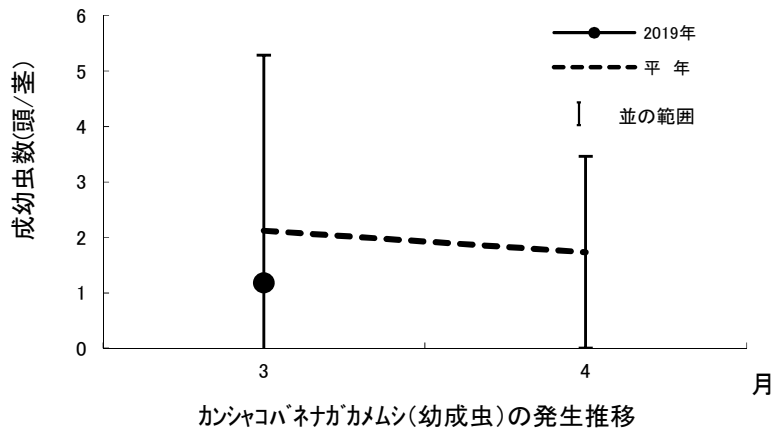
←マエウスジロマダラメイガの幼虫

防除のポイント

- ・ 大発生すると吸汁害及びすす病により、さとうきびの生育が遅延するため、早期防除が重要である。
- ・ 薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
- ・ 収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト(飛散)しないように注意する。
- ・ 捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。
- ・ 多発生時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② カンシャコバネナガカメムシ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



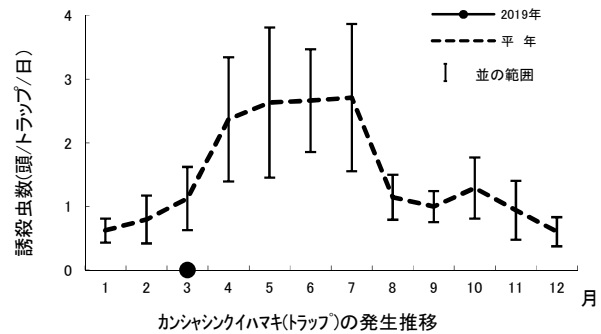
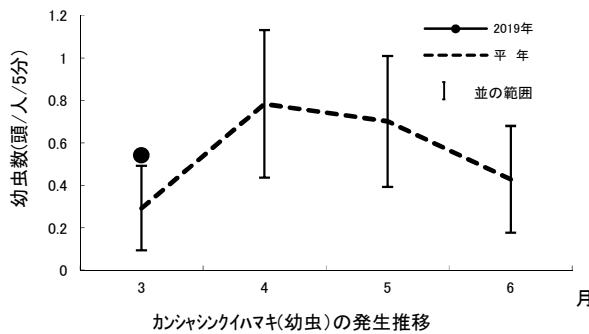
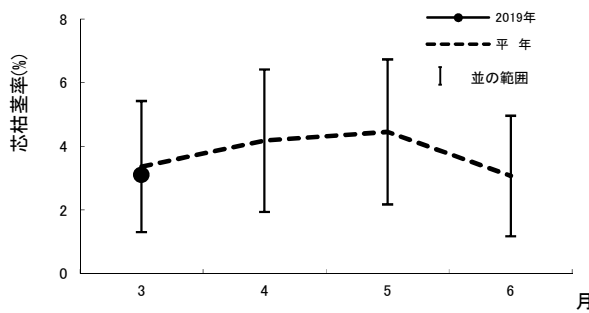
- ・ 2019年の本島の防除適期は4月1日～16日（病害虫発生予察技術情報第3号参照）。

防除のポイント

- ・ 薬剤による防除は、防除適期に茎当たり虫数が20頭を超えている場合は直ちに行く。
- ・ 1回目の株出、及び前年夏植で被害を受けやすいため、特に注意する。
- ・ 収穫後は直ちに畝間耕耘をし適切なほ場管理をする。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	③ メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



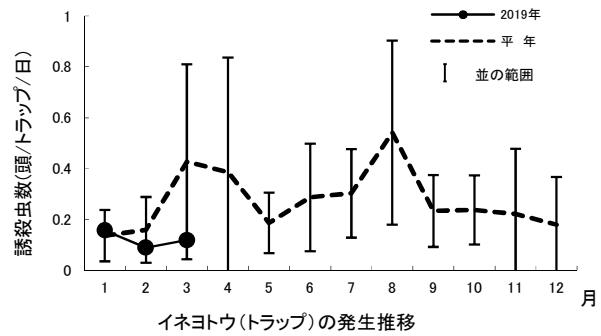
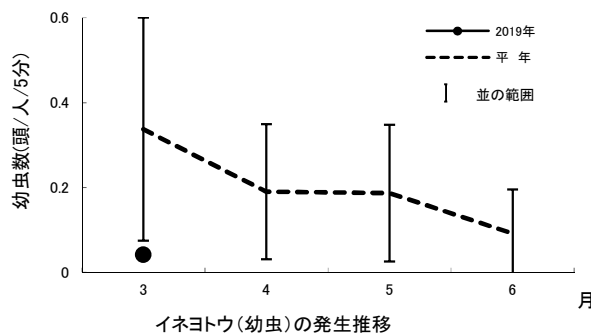
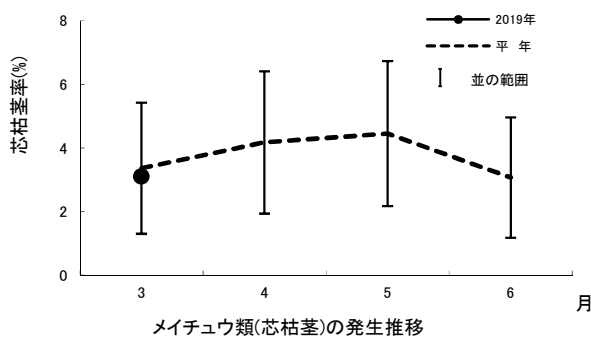
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の93%がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 防除員の報告によると、南大東島でメイチュウ類が中発生。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	④ メイチュウ類(イネヨトウ)		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の7%がイネヨトウであった。
- ・ 防除員の報告によると、南大東島でメイチュウ類が中発生。

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。